

野生・身近な淡水魚の魅惑

Fascination of Wild and Familiar

Fresh-Water Fish

岩崎行伸*

海と魚の漁場と漁業の調査&研究を行ってきた小生が、リタイヤ後に趣味として河川域に棲息する生きもの主として淡水魚の竿釣りとはタモ網により採集し水槽飼育した魚の魅惑に関して紹介する。

1) 始めに、吉田川(二級河川、静岡/駿河)の側道を散策中のことである。大型清澄な川底に大型アマゴ(写真A、サケ科)の泳ぎと小型アブラハヤ(写真E)の大群を目視観察された。この川には魅惑のアマゴが棲息しているはずがないと思い、近隣農家の人達に尋ねると、20年前にこの静岡地区の七夕豪雨による水害後、静岡県内水面協から、アマゴの幼魚が放流されたという。その後、この川の生きものたちの棲息調査の折々、小型アマゴとアブラハヤ(2年で6~10cm成熟、タカハヤと共存)をタモ網で採集することがしばしばあった。最近では大型のアマゴはさっぱり目視観察できなくなった。この原因には、身近な川釣りの人気(刺身・塩焼きで美味しい)が集中して乱獲傾向のようにも思われるが、タモ網採集では時折小型魚が採集されて水槽飼育するが、夏場の高水温では限界があって死滅させてしまった。この期においては、アマゴとアブラハヤ(3~8月の日中に産卵)とも繁殖が順次に行われていることを証明していたことと、夏場の水槽飼育には、5~10℃に保持できる冷水装置が必要である。近年では、静岡奥部域でアマゴの養殖が行われており、美味しい刺身定食が食べられる。

2) 塩田川(二級河川/清水)においては、夏季から秋季にかけ、小中大型魚のオイカワ(コイ科か、写真B♂、写真C♀)が大群を成して遡上のところを目視観察された。ここでは竿釣りで釣り獲を試みるも難しい。夏休みの子供等は、餌釣りで入れ喰いを愉しんでいるので、餌の種を訪ねると、米粒を付けていた。その後ミミズからおにぎりの米粒を付けるとこれが、面白い程よく釣れることを経験した。冬季から春季には小型魚の群れがタモ網で採集された。岩と岩の隙間には産卵魚が出入りしていた。5~8月のオイカワ(♂)の産卵前には婚因色(赤・青・緑に濃く彩られ、頭部や尻鰭などに追星が生じ、尻鰭

身近な淡水魚の魅力-写真1.



A:



B:



C:

身近な淡水魚の魅惑-写真2.



写真1. A:アマゴ(吉田川/静岡駿河)、B:オイカワ♂
(塩田川/清水)、C:オイカワ♀(塩田川/清水)、
写真2. D:ゲンゴロウブナ(麻機川/静岡葵)、E:アブラ
ハヤ(吉田川/静岡駿河)、F:ウグイ(庵原川/
清水)

が著しく大きく延びて実に優雅で美しいが(♀)は体長12cm程度で成熟し、白色で腹部大きいのが特徴である、この魚の釣獲は困難のため、岩と岩の間か

らの出入りを狙うのが秘訣である。

3) 麻機湿地（遊水地、静岡葵）においては、ゲンゴウブナ（コイ科、ヘラブナ）の竿釣りとはモ網で採集される。大型魚（4から6歳魚、体長30cmで成熟、大型魚：50cmに達する）が春先から初夏にかけて大雨で増水した直後の夜明けに、最も活発になり浅場に来て、交尾・産卵行動が目視観察された。淡水魚では、冬季の釣りにあつて太公望の人気魚種であり、湖沼・池では人為的放流が行われており、有料会員制で釣獲後にはリリースして資源保護を維持している。秋季から冬季にかけては、小型魚が極浅いところまで入ってくるので、タモ網で採集することができる。

4) 庵原川（二級河川/清水）において、ウグイ（コイ科）の河口の堰止めの汽水域から遡上して来る。湖・池・沼や川の上流から下流域までの川の淵に棲んでいる。ここでは満潮時には多くの汽水性の中・大型魚が釣り対象となり、釣り太公望が多く集まる人気種である。小型魚は、中流域で釣り対象魚である。2～3年で成熟し、体長45cmに達する。

参考文献

- 1) 川と湖の魚①（2002）：検索入門、川那部浩哉・水野信彦共著
- 2) ヘラブナ釣りと飼育&成長を愉しむ（2007、岩崎行伸：海鳴12号、東海大学海洋学部/海外水産開発研究会（海水研OB会編集）
- 3) 清流の魚類相と水棲環境（2009、岩崎行伸）：海鳴18号、東海大学海洋学部/海外水産開発研究会（海水研OB会編集）

添付写真

写真1. A：アマゴ/吉田川/静岡駿河）、B：オイカワ♂（塩田川/静岡清水）、
C：オイカワ♀（塩田川/静岡清水）

写真2. D：ゲンゴロウブナ（麻機川/静岡葵）、E：アブラハヤ（吉田川/静岡駿河）、F：ウグイ（庵原川/静岡駿河）

*会員：自然観察塾（塾長）、水棲&環境研究